

# 医療発祥の地から

## 日本を動かそう

全国国保地域医療学会で日頃の研究成果を発表

西伯病院の職員は、地域医療の担い手として日々の活動や研究を医療・介護に役立てるため、自己研鑽に努めています。今回、西伯病院から4名の看護師が、日ごろの研究成果を全国から集まった医療関係者の前で発表しました。



この学会は、全国47都道府県から国民健康保険診療施設関係者等が参集し、地域医療及び地域包括医療・ケアの実践の方途を探求するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図

ることを目的として毎年開催されています。

今年には島根県・鳥取県の共同開催で、メインテーマが「医療発祥の地から日本を動かそう」地域包括医療・ケアを全国の都市へ」とし、10月4日(金)・5日(土)の2日間松江市で開催されました。

メインテーマの中にある「医療発祥の地」は、赤猪岩再生神話も登場する古事記に

由来したものです。



初日に行われた国保直診開設者サミットでは、「がんの早期発見に向けた鳥取県西伯病院の取り組み」が「がん外来の導入」について、坂本昭文

町長が発言者として登壇し「アミノインデックスがんスクリーニングを住民検診の前検査に取り入れることにより、早期がんが発見され、早期治療で事なきを得て喜んで

頂いた。国保直診施設はそれぞれの地域の公共財として、住民の皆さんの健康と命を振り所として一層その機能の強化が図られなければならない。」と発言しました。

一方、公立病院改革の研究発表では、木村修院長が「経営意識の共有と住民検診による経営改善」について、地域住民により信頼される病院を目指すとともに、地域住民のがん検診、特定健診受診率を向上し、健康で活力にあふれた地域づくりに貢献したいと発表しました。



各診療施設からは331件の研究発表があり、西伯病院は4名の看護師が研究発表を行いました。

■『救急外来勤務看護師が抱く不安内容と今後の課題』

【発表者】

外来看護師 小林 裕美

■『慢性期意識障害患者への背面解放座位と足浴を用いた介入の効果』

【発表者】

3A病棟 橋本 真介

■『手掌の浸軟および不快臭に対するミョウバン水を用いたケアの効果』

【発表者】

3B病棟看護師 古澤 洋子

■『NST、褥瘡委員会が介入して軽快した一症例』統合失調症で低アルブミン値の患者に関わって』

【発表者】

4階病棟看護師 内藤 美津子